

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察特殊報第5号について

マンゴーおよびハウスミカンにおいて、「チャノキイロアザミウマ」（新規系統）の発生が認められ、特殊報第5号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第5号

平成22年2月1日

鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 チャノキイロアザミウマ (*Scirtothrips dorsalis* Hood) (新規系統)

2 作物名 マンゴー, ハウスミカン

3 発生確認及び発生状況

本県のマンゴーに対するチャノキイロアザミウマは、平成17年頃から薬剤感受性低下が問題となっていた。一方、国内ではこれまで発生していなかった本種の新規系統が確認された。

そこで、平成21年2月に垂水市のマンゴーほ場5aで採集した本種成虫を農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所の果樹害虫研究チームに遺伝子診断を依頼した結果、従来から分布していた在来系統とは異なる新規系統と確認された。平成21年3～7月にかけて県内20市町30地点で本種を採集し、遺伝子診断を依頼した結果、マンゴーほ場では指宿市、日置市、南九州市、志布志市、奄美市、喜界町、天城町、知名町、与論町、ハウスミカンほ場では大崎町の合計10市町17地点で新規系統の発生が認められた（図1）。

4 本種（新規系統）の特徴

分 布：タイ、インドと台湾に分布する系統と同一あるいは極めて類似した遺伝子型を持っている。日本では、平成20年に沖縄県と高知県のピーマンで発生が認められている。

寄主範囲：在来系統では61科200種以上（特にツバキ科、バラ科、ミカン科、ブドウ科、スイカズラ科、マキ科、カキノキ科、ウルシ科を好む）が報告されているが、新規系統と遺伝的に類似した海外の系統は、パッションフルーツを含む各種熱帯果樹、ピーマン、草本類、木本性マメ科植物等、在来系統の寄主以外にも寄生する。

形 態：在来系統との違いはなく、成虫は雌雄とも体色が黄色で、体長は雌が約0.9mm、雄は0.8mmで、背部中央に閉じた前翅が黒く筋状に見える（写真1）。在来系統との判別は、今のところ遺伝子診断以外に方法はない。

被害様相：在来系統と同様で、マンゴーでは、新芽、花穂および幼果に寄生する。高密度となると、幼果は表面が象皮または鮫肌状になり、著しく品質が低下する（写真2）。また、新梢では特に中肋を加害し、多発すると落葉することもある（写真3）。ミカンでも、果梗部のリング状の傷と果頂部の灰褐色～茶褐色の雲形状の傷を生じる（写真4）。

5 防除対策

黄色粘着テープおよび光反射シートを設置し、ハウス内への侵入防止に努める。

6 参考文献

- 土田（2009）植物防疫 63：452-454
土屋ら（1995）応動昆 39：219-225
梅谷ら（1988）農作物のアザミウマ 192-233
平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号 高知県病害虫防除所
" 第3号 沖縄県病害虫防除所

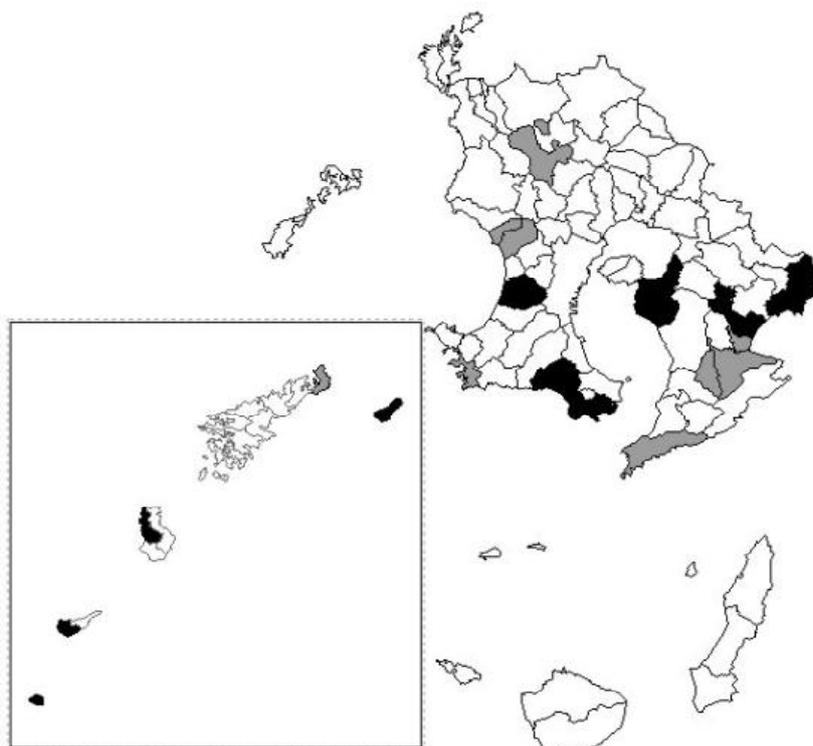


図1 鹿児島県における新規系統チャノキイロアザミウマの発生分布（合併前の市町村で表記）
 注) ■ は新規系統の発生を認めた市町村, ■ は発生を認めていない市町村, □ は未調査の市町村を示す。



写真1 雄成虫



写真2 被害果実（マンゴー）



写真3 被害葉（マンゴー）



写真4 被害果実（ミカン）